

竜ヶ崎線の小さな旅 ～鹿島参宮鉄道竜ヶ崎線～

撮影日:1962(昭和37)年3月、1963年(昭和38)年8月

風間 克美

東京通勤圏として発達してきた関東鉄道(元鹿島参宮鉄道)竜ヶ崎線。訪問した昭和30年代後半は鹿島参宮鉄道の時代で蒸機が牽く貨物列車が走っているなどまだ昭和30年代の面影を残していた。上野から佐貫まで1時間ほど、友人と竜ヶ崎線を訪ねるといつも曇天だったが日帰りで小型蒸機の活躍を存分撮ることができた心休まる小さな旅であった。この時代は国鉄の蒸機をふんだんに撮影できたが地方私鉄の蒸機はどんどん消え行き、近場では竜ヶ崎線や上武鉄道(日本ニッケル)などで最後の活躍をしていた。

昭和38年に竜ヶ崎線を訪問した日はまるで冬のような曇天で、この年の夏は天候崩れの日が続いていた。竜ヶ崎駅構内では4号機が貨物の入替作業に忙しく動いていて、いつものように貨物列車を牽いて佐貫まで往復していた。小さな機関庫にいた5号機もこの日は庫外のターンテーブルの上で休んでいた。東京近郊でまるで映画の場面に使われるような風景をまだ見ることができた。

格調ある竜ヶ崎駅舎や客車庫の奥にあった日通倉庫に戦前の龍崎鉄道時代から使われていた蒸機4号機や2軸古典客車ハフ2がよく似合ったが、鹿島参宮鉄道時代に鉾田線から転籍してきた小型気動車キハ40402や2軸車キハ103、102(客車化)などもよく似合っていた。これらの車両の活躍をкаろうじて見ることができたのが昭和30年代後半であった。この頃の竜ヶ崎駅や待合室、駅前のボンネットバス、日通倉庫などをもっと撮っておけばこの時代を表わす貴重な記録になったが、残念ながら車両以外で撮ったのは竜ヶ崎機関区の一隅くらいであった。竜ヶ崎駅構内の奥に広がる光景は一体どんなであったろうか。

昭和40年代に入ると鹿島参宮鉄道は関東鉄道となり、どこの地方私鉄もそうであったように竜ヶ崎線も他社から入線した車両でそれまでの鹿島参宮鉄道時代の雰囲気は薄らいでいった。私にとって日帰りできる「竜ヶ崎線の小さな旅」はいつでも行ける旅であり、また行こうと思っていたところ、あの時の光景はあっという間に消えてしまった感じがする。



竜ヶ崎を発車した 4 号機が牽く貨物列車。



機関庫前の小さなターンテーブル上に休む 5 号機。



コンパクトに纏まった竜ヶ崎機関区と4号機。



龍崎鉄道時代からの古典2軸客車ハフ2と日通倉庫。



竜ヶ崎駅構内で入替え作業を終えると 4 号機は貨物列車を牽いて佐貫へ向かった。
貨車に挟まれた荷物車ハフ 15 は元ガソリンカーの片ボギー車。



元国鉄気動車キハ 04 形に牽かれたキハ 102(客車化)。ホームの向こうは竜ヶ崎駅本屋。